

2310 | 絵画研究 IV

2 単位（面接授業 2 単位）

三浦明範教授、重政啓治教授、川口起美雄教授、神彌佐子講師、東俊行講師、星晃講師、和田雄一講師

授業の概要と目標

油性系、水性系選択。

絵画研究Ⅱを履修した者が、同科目で選択した油性系または水性系と異なる系の選択で学習することを条件に、さらに研究を重ねることを目的とし、素材が持つ表現の可能性を研究する科目。授業としては絵画研究Ⅱと同じ内容であるが、面接授業のみで行われる。

油性系は、キャンバスや絵具などに対する素材としての認識を高めることにより、物質と表現との密接な関連を理解し、絵画が単に直感だけによるものではなく、適切な素材や技法を通して豊かな表現に至ることを知る。支持体や絵画層、下層描きと上層彩色の関連、油絵具の特性と表現の関連等を考察・研究する「絵画組成」を実習を通して学ぶ。

水性系は水などを媒体とした絵具の表現の幅を学ぶ。絵画表現における造形研究として、伝統的な墨がもたらす白黒の色の幅と、素材として重厚な支持体の特性を体感しながら描くことの可能性を探ることを目的に基本的な使用方法から応用までを学ぶ。

課題の概要

○面接授業課題

<油性系> 「絵画組成」

1-1 人物をモチーフにカマイユ等により下層描きから上層着彩へのプロセスを研究し、油絵具の可塑性、透明性等の特性及び溶液の特性を活かした表現を研究する。F12号キャンバス。

<水性系> 「墨で描く作画」

1-1 墨を使って様々な紙にデッサン、手本からの学習を重ね、150号程度の作品を描く。

授業計画

<油性系>

第1日目	午前：前提講義及び制作（絵画組成）	午後：制作（下層描き）
第2日目	午前：制作	午後：制作
第3日目	午前：制作	午後：制作
第4日目	午前：制作及び講義	午後：制作及び講義
第5日目	午前：制作（彩色）	午後：制作
第6日目	午前：制作	午後：採点・講評

<水性系>

第1日目	午前：前提講義及び写生	午後：制作（下層描き）
第2日目	午前：墨による制作	午後：墨による制作
第3日目	午前：手本からの学習	午後：手本からの学習
第4～5日目	午前：自由制作	午後：制作
第6日目	午前：制作	午後：制作及び採点・講評

成績評価の方法

作品による評価

履修条件及び履修年次

[履修年次] 2～4年次

[履修条件] 「絵画研究Ⅱ」の単位を修得していること
「絵画研究Ⅱ」で選択していない系統を選択すること。

[備考] スクーリング時に受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：[絵画—素材・技法—]（武蔵野美術大学出版局刊行 2002年）